

石川県における大豆の多収阻害要因の解明

1 背景・目的

大豆は、収量の年次変動が大きいことに加え、減収する要因が多岐にわたり、対策が絞りにくい。そこで、的確な収量向上対策を立てるため、多収阻害要因を明らかにする。

2 技術のポイント

- (1) 県内 57 圃場における実態調査の結果、県内の大豆栽培圃場の減収要因としては、土壌水分、土壌の化学性、雑草が挙げられる。
- (2) 苗立ち期には排水不良が問題になるが、梅雨明け以降は乾きやすく、乾燥害が懸念される圃場がある (データ略)。
- (3) 塩基バランス (石灰苦土比) や可給態リン酸、pH で土壌改良目標値を満たしていない圃場が 6 割以上に上る (図 1)。
- (4) 雑草が問題となっている圃場では、タデやアサガオ類、クサネムなどの広葉雑草の発生が多い (表、図 2)。

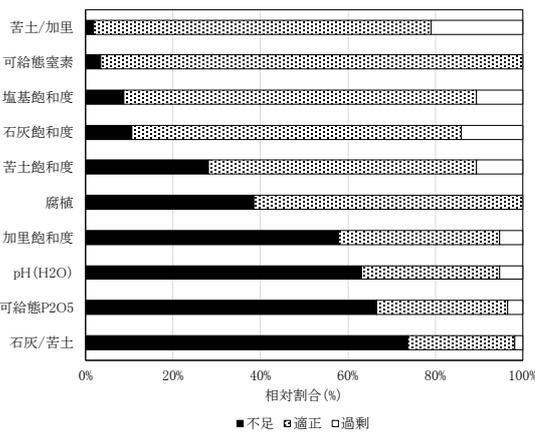


図 1 土壌診断項目別の相対度数分布 (県内 57 圃場調査)

注) 不足 : 土壌診断目標を下回る値の圃場
 適正 : 土壌診断目標内の圃場
 過剰 : 土壌診断目標を上回る値の圃場

表 県内圃場に発生がみられた雑草の種類と圃場数 (48 圃場調査)

広葉雑草		単子葉雑草		
種類	発生圃場数 ^(注)	イネ科雑草	その他の雑草	発生圃場数 ^(注)
タデ	8	ヒエ	4	カヤツリグサ 1
アサガオ類	4	エノコログサ	2	
クサネム	4	メヒシバ	2	
アオゲイトウ	3	オヒシバ	1	
アレチノギク	2			
イヌホオズキ	2			
ツユクサ	2			
イチビ	1			
シロザ	1			
ワルナスビ	1			

注) 発生が中以上の圃場数



図 2 県内に発生する広葉雑草 (左 : タデ、中 : アサガオ類、右 : クサネム)

3 成果の活用と残された問題点

事例を集積し、マニュアル化を図る。

問合せ先 : 生物資源グループ TEL 076-257-6911
 担当者 : 高原知佳子・赤桐さやか・梅本英之

本研究は、農林水産省委託研究プロジェクト「多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発」の支援を受けて行いました。